

郷土こぼれ話

地域の神様 ⑩ 特色ある神さま

(1) 庚申塔と三猿



庚申塔は、庚申塚ともいい、^{こうしんとう}中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のことです。左は石碑(代集会所前)で、右は庚申講の本尊^{しやうめんこんごう}青面金剛(代島家墓所前)です。

道教では、人間の体内には三尸という悪い虫が棲み、人の睡眠中にその人の悪事を全て天帝に報告すると言われています。三尸が活動する庚申の日には眠ってはならないと言われています。これが庚申待ちの習慣です。

庚申塔の石形や彫られる神像、文字などは様々ですが、申は干支で猿に例えられることから、「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿を彫ったものが多いです。

右の写真を見てみましょう。青面金剛像の足下に、三猿が彫ら

れています。中国から伝わった信仰が日本の考え方と結びついた例だと言えるでしょう。

(2) 三面の地藏尊

公民館近くの代島家墓所に、写真のような石造があります。三面に地藏尊が彫られた石造が2基あります。地藏尊(お地藏さま)



が6体ありますので、六地藏と考えてよいでしょう。

六地藏について考えてみたいと思います。六地藏とは、地藏菩薩の六分身をいいます。生前の行為の善悪のいかんによって、人は死後に地獄、畜生、餓鬼、修羅、人、天という六道の境涯を輪廻、転生する

といわれます。そのそれぞれに、衆生救済のために配される檀陀、宝印、宝珠、持地、除蓋障、日光の地藏を六地藏といいます。

六地藏がお寺や墓地にあるのは、死後の人々を救済するためだといえます。

参考資料：Wikipedia

文・写真：むらた ひとし

大幡公民館だより別刷り 平成30年 9月